

環境対策事例紹介

農業用廃プラスチック回収



農家へ農業用廃プラスチックを回収している様子



回収した農業用廃プラスチックの重さを計測している様子

女性部花壇整備



JA女性部による花壇整備。とても綺麗です。



ギ酸のタンクをプランターとして再利用しています。

JA職員環境美化活動(清掃活動)



JA職員による周辺環境美化活動(清掃活動)



色々なゴミが集まります。

リングプル・ペットボトルキャップ回収



ペットボトルキャップ回収BOXを設置しています。



回収したリングプル・ペットボトルキャップを集めて社会福祉協議会へ寄付しています。

この他にもAコープ店舗(スーパーマーケット)では、買い物袋は非石油原料を使用し、約10%の石油資源を節約しています。また、エコバックの使用を推奨しています。さらに、牛乳パックを回収しリサイクルに取り組んでいます。

平成 25 年度事業計画基本方針

I. 基本骨子

自民党が政権を奪還したというよも、政権公約（マニフェスト）を達成できない与党内紛と、批判はすれども政権を担った事が無いという未熟な政権統治能力の欠如の結果であります。安定と成長を求める国民により審判が下されたと解すべき総選挙から年が明け、景気が良くなるという期待の巳年を迎えました。

投票率の低さに不安と無関心が交錯する中、『決められない政治』からの脱却が、新政権の動きに市場は敏感に反応し、緊急経済対策に高揚感が広がるのを感じるところです。

しかしながら、税制改革をテコに財源の確保が見込まれているとはいうものの、所得の再配分と社会保障の改革は進まず、借金が一向に減らないこの国の財政改善は、また先送りなのかという危うさも感じるころでもあります。

直面する東日本大震災の被災者支援が被災地復興につながる事を願いつつ、主権や原発問題からエネルギー政策、TPP問題そして少子高齢化社会の日本が抱える問題は、地方にも同様の課題として突き付けられているともいえ、食と農が、消費と生産の両輪となって地域を支えるという絆を強め『支えあう農村と地域づくり』の実践を通じて、国益は何かを問われる年と思われまます。

この地域が成立するために必要なものは？と問われる時、基盤である農業である事を言をまたないところであり、観光や地域産業を巻き込んだ地域の活性化が必要であると認識している所でもあります。その農業は大規模化する経営体と家族労働で賄う経営体に分かれていく現状の中で、どちらが有効かというのではなく、最低限の域内生産の維持と集落機能を維持するためにはどちらも必要であり、農業所得が確保される持続可能な経営の構築には、経営者が自ら考えて行動する経営感覚が極めて重要であります。

増産体制が示される中で、当JA管内の農家戸数が5年以内に22.0%が減るというシミュレーションがされており、生産基盤の維持と拡大が不可欠であります。農業支援事業を基盤に体系づけた酪農版リバイバルプランの研究・検討の年から実行の年として進めたいと存じます。生産コストの低減対策と担い手対策は、労働負担と大型機械負担の軽減という側面も有しており、農作業の分担や部分委託などのほか、農地の有効利用が土地利用型農業の根幹であると認識し、積極的な情報交換と協力をお願いしたいと思います。

特に持続可能な経営体の確保のため、研修牧場をはじめとした新規就農から雇用労働力の確保に向けた農家戸数維持の体制作りに取り組んでまいりたいと存じます。

また、環境負荷軽減対策としてのバイオマス（家畜ふん尿）プラントは自然再生エネルギーとして臭気対策としても有益であり、引き続き行政へ働きかけて参りたい。それは、農業が環境や資源循環に果たす役割を再認識し、消費者に理解をしてもらうことです。

本年は第4次中期農業振興・農協経営改善計画の最終年でもあり、新役員体制による検証のもと新たな道標をつける年として、JA役職員の英知を結集し、関係機関とも連携し公正な業務運営に取り組んで参ります。JAは組合員参加型の組織であり、皆様の理解と協力なしには計画の達成は難しく、一層のお力添えを賜りますよう宜しくお願い致します。